

第27回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成23年4月21日 18:30～20:00

場所 郷内公民館

要約版

《市長》

皆さん、こんばんは。この郷内公民館は倉敷市が平成15年に用地を取得いたしまして、この度4月にオープンさせていただいたのですが、地域の皆様からの特に駐車場の面のご要望とか、入りましてすぐの所に太陽光発電のパネルがあり環境に配慮した建物にしたつもりでございます。オープンの日には皆様にお越しをいただきまして地域の皆様には、うどんのサービス、お茶のサービスをしていただきまして誠にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。皆さんにぜひ使っていただいて地域の拠所になるような場所になっていければいいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

最初に皆さんも非常に心を痛めていらっしゃると思いますが、東日本の災害が3月11日に起こりました。倉敷市といたしましては、その直前までに倉敷市の姉妹都市でありますニュージーランドのクライストチャーチ市で大変大きな地震が起こりまして、そこへ何とか姉妹都市としての支援をしていきたいと消防局から2名、事務職員1名を初めて倉敷市独自の外国への救援隊ということで、現地へ3名を派遣いたしました。次の次くらいの日に派遣しまして、隊員の背中に「倉敷ファイヤー」と書いた消防服で作業を行っていらっしゃいましたら、クライストチャーチの皆様ほとんどが倉敷市が姉妹都市だとよくご存知でいらっしゃいまして、わざわざ北半球から南半球まで、この地震のことで来てくれたのかと非常に道を行き交うにも止まって握手を求められたり「倉敷どうもありがとう」と言って下さったり、地元の新聞に日本語で「どうもありがとう」と載せて下さいました。倉敷市からビニールシートやマスクを何万枚か送ったのですが、それによって非常に勇気付けられたと言われておりました。そして、倉敷市に帰ってきてやれやれと思っておりましたら、今度は東日本の大震災が起こったのでございます。3月11日に起こりまして、倉敷市から次の日の12日の朝8時半に消防隊を派遣いたしました。市内の児島地区の消防署から行っておりますが、消防車と救急車と合わせまして、車が7台、隊員が22名現地の方へ行きました。塩釜市、多賀城市、現地は非常に大変な状況で、当然泊まる所ありませんから、消防隊員たちは現地のグラウンドでテントを張りまして、野営で活動致しております。

同じ日に水道が断水して、こちらから倉敷市の水を積みまして、現地の方へ3名隊員を派遣し、仙台市で給水活動を行いました。到着したら、300メートル以上列ができており、学校のグラウンドでポリ袋を持って待たれており、拍手で給水車を迎えてくれたということでした。そこから活動をいたしました。また、岩手県の大船渡市と陸前高田市の方で、非常によくテレビに出ましたけど、今、倉敷市から行っております医師、保健師が保健所の担当をしており、保健所をずっと巡回して血圧を測ったり健康相談に乗ったりと、震災直後からまだしばらくやるつもりでございますが、続けております。児島地区からは同じく岩手県の大槌町という所で向こうの方から要望があり、服が全部流されてしまって、子どもの入学式の詰襟の制服とか学校のジャージの服がないという情報が入りましたので、児島のアパレル工業組合の方に相談をしましたら、すぐにいろんな会社から約3千何百点の服を集めて下さりまして、それをファッションセンターから倉敷市の環境リサイクル局

のトラックに積んで現地に持って行き、ちょうど今日くらいに入学式をやっておりますが、それに配って着てくれていると伺っております。

倉敷市は中核市ですが、同じ中核市の福島県郡山市といわき市が放射能の関係で物が入らないというSOSが入ってきましたので、こちらの方から市民の皆様からいただきました支援物資を積み、環境リサイクル局のトラックで何回か行きました。現地の方へ行きまして、物資を配給いたしたり、ガレキが何十年分以上分のガレキになっておりますので、環境リサイクル局の職員が、今現地に行ってガレキの撤去や、搬送をしているところであります。3月に起こりこれまでの間で岩手県、宮城県、福島県の3県の中の10の市と3つの町に対しまして延べで約120名の職員を派遣しまして、現地で入れ替わり立ち代り仕事の手伝いをしているところです。これからも引き続きやっていくつもりでありますし、こちらに避難をして来られている方もいらっしゃいますので、その皆様たちへの支援もしっかりしていきたいと思っております。

それから倉敷市民の皆さんが本当にたくさん義援金をいろいろな形で持って来て下さいました。約1ヶ月で1億3千何百万円くらい皆さんのたくさんのお金を持ってきて下さいましたので、3つの県だけでなく大きな被害を受けておりますのが青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉という7つの県が非常に大きな被害を受けておりますので、いろんな計算で案分しまして少ない所は100万円から、茨城県が250万円、100万円、250万円、4000万円とか2000万円とかいう形で各県の義援金口座の方に皆さんの義援金を、現地で被災地の方に分けていただきたいと送金をしたところです。まだまだこれから長い支援になってくると思っておりますし、一方で、私が一番心配しておりますのは、今日も「皆で頑張りましょう」と一緒に書かせていただいたんですが、日本全国に対する経済的な影響等もこれから出てくる様子があり、非常にその点を懸念しております。水島の三菱自工さんとか車の部品が入らないので、工場が休業になる期間もありました。市内の水島と東北の方を結んでいる船の搬送のお仕事であるとか、荷物を供給するトラック会社の皆さんとか、軒並み何割かその関係の仕事が減ったり、もちろん現地は大変ですが、日本全体的に非常に大きな影響が出てくるのでないかと心配しております。こちらでできることは一生懸命やっていかなければならないと思っておりますので、まず、震災の報告をさせていただきました。

もう一つ、ニュージーランドの後日談ですが、先日、クライストチャーチの支援を倉敷がしたということで、わざわざニュージーランドの大使の方が倉敷市までお越しになられ、大変ありがとうございましたとお礼の言葉をいただきました。日本の東北が被災したということで、倉敷や日本国からすぐ駆け付けて助けて下さったので、東北の震災が起こった時にニュージーランドは何と何十人も救援隊を東北へすぐ派遣して下さいました。それもニュージーランドでは初めての派遣だと言われました。「初めて倉敷からも日本からも一生懸命来てくれたので、自分の所もまだまだ復興途中だけど、こちらから行って助けたいと送ることにしました」と言って下さいましたので、そういう面でも東北の役に立ったり、一つ一つが繋がっていると思えましたので、ご報告をまずさせていただきました。

それでは、この倉敷市のふれあいトークの中で各地区の課題、倉敷市内の今大きな動きについて少しご報告をさせていただきます。まずこの郷内地区で一番最近の大きな倉敷市の事業としては公民館のことがあります。確か2年前に中学校の方に照明を付けさせて頂きまして、行事等でも使っていただきやすいような整備をさせていただいております。今

年の10月に児島の市民交流センターが完成することになっております。倉敷市内の各地の整備をするにあたり、特に私が児島地区について、どういうまちづくりを考えているかと申しますと、ここが文化センターの所ですが、この辺りに児島の駅がございます。児島駅は岡山県内で岡山駅の次に大きな駅の広場になっております。駅前では倉敷の広場ですが、そこを今多くの緑の部分を作りまして、駅前の緑の空間を非常に大切にしていこうと思っております。駅前の広場の所から道を渡って行きまして左右にファッションセンターと旧マウントフット大学の所がございました。つい先日でございますが、マウントフット大学は購入してから随分7、8年経っておりますから、児島の地域の産業活性化の拠点にしたいと産業振興センターとして中を再編をいたしました。主に繊維産業等、児島の特色のある企業に活用していただきやすいような建物、中身にしております。児島の公園からこの児島の文化センター、架橋記念館の所を通り、商店街を通過して、野崎邸ジーンズストリートまで繋がる。こちらの商店街でございますが、この一帯を児島の駅前の中心市街地として一体的に使って整備していきたいと思っておりますのが児島のまちづくりの駅前の部分です。芝生の広場を作り、架橋記念館の所を今改築しております、こちらはもう随分見えてきているかと思いますが、これまでの児島の公民館や図書館が随分老朽化してきておりました。また一つずつ建替えますと非常に管理面が難しいことがありましたので、併せて建築の合築をしましてこちらの横の方に持ってきております。架橋記念館の中と一体的に使おうということで、もちろんこちらの方にも太陽光発電等を入れて、こちらの近くの方にも芝生の部分等を入れ、この目の前の公園の所についても今整備をしています。

この本体の市民交流センターですが、一番考えております所は今まで児島の図書館の本数が他地域の基幹図書館に比べて随分少なくなっております。児島図書館が今蔵書

13万何千冊ですが、他の地区よりも数万冊少なくなっておりますので、それを約20万冊近く増強していこうと思っております。太陽が入ります明るい図書館にしたいと思っております、これまでの図書館は非常に狭く、棚の幅も狭くて通りにくかったんですが、それを広げました。上の高さが6段くらいまであって取りにくかったんですが、低くして取りやすく広く使いやすい形で整備しているところです。この中にある公民館のホールを繊維の町、ジーンズの町ということで名前は「ジーンズホール」にしました。全国でももちろんそういう名前はないんですが、緞帳も普通の布ではなくて、日本でこれももちろん初めてですがジーンズの布を使って児島のジーンズのメーカーの皆さんにご協力をいただきまして今ジーンズ緞帳の作成に取り掛かっております。出来上がりがどうなるかまだ分からないんですが、日本で初めてのジーンズ緞帳ということで、それを使っていこうと思っております。ここから全体をファッションのまち、繊維のまち児島ということで駅前を使っていればありがたいと思っております。この地区だけではなくて例えば観光面につき、この沿岸部の方では鷺羽山、王子が岳について力を入れていきたいと思っております。この郷内地区で非常に大切だと思っておりますのは、日本第一の熊野神社のことでございます。熊野神社は本当にご信仰も厚い方がたくさんお参りに来られたり、また歴史を勉強したりする方が非常にたくさんいらっしゃると思っております。当時につきましても、併せてこの郷内に非常に古くからある歴史文化の部分についてもっと市内全体や県内や県外の方も知っていただけるようなことを市民の皆さんと地域の皆さんと一緒にできないかと思っております。最近コウノトリ等が飛来をしていると思っておりますので、非常に環境のいい地区であると思っております。皆さんからもっとこういう活性化できないかという

お話を今日いただければありがたいと思っております。

倉敷の駅前の地区のことについて少しお話をさせていただきたいと思います。平成20年の末にチボリ公園が閉園しまして景気も悪かったわけでございますので、どうなるかと心配しておりました。クラボウさんの方には何とか早く活性化になるような後継の企業さんをお願いしておりましたら、クラボウさんが全体的に持っている工場跡地の中で一番優先権を持っていろいろ探して下さいまして、今現在このような形でイトーヨーカ堂さん、中国地方で初めての三井不動産のアウトレットモールが来ることになっております。この時に倉敷の駅前としてどういうことを考えていたかと言いますと、駅前から南に大原美術館等もあります。北については、緑の部分が非常にこれまで少なかったわけでございますので、クラボウさんの方にこの駅前の部分を何ヘクタールか売ってほしいと申し入れをいたしておりました。それを公園にして駅前の緑の公園、ここに高梁川から繋がっております倉敷用水と併せて緑の公園を造りたいと申しおりましたら、これと併せまして合計で約2ヘクタールぐらいだったら売ってもよろしいと。ただ駅前なので結構高かったわけですが、合計で整備費も入れまして16億円になっています。ただ、土地の値段交渉ということではなくて、いろんな国の補助金をあちこちから探して来まして、何とか倉敷市の自腹がなるべく少なくなるようにと探し、今全体での整備費が土地代を含めまして16億円弱くらいになる予定ですが、そのうち倉敷市の自腹が約2億円で済むようになりました。2億円ぐらいで整備できたら何とかいいかと思っており、そのような形で今整備を進めております。こっちはヨーカ堂さんのショッピングセンターとアウトレットモールが来るんですが、ここが片道300メートルありまして、用水沿いの緑道整備をしております。緑の中を歩きながら川にも親しんでいただけるようなもの。周りの道が直接車道の所と歩道の所とありましたのをぐるっと歩いていただけるような部分にし、これと合わせて行き来が600メートルで、一周は約1.4キロあるんです。合計で約2キロくらい。この辺りは街中でなかなか緑の中を散歩できる場所がありませんので、そういう所も含めて使っていこうと今倉敷の駅前の整備をしております。児島の駅前の方がちょっと大きいですが、緑の公園の部分の名前は公募をしまして「倉敷みらい公園」にしております。公募しましたら皆さんやっぱり倉敷市内の未来が緑で溢れるようなまちになったらいいと言って下さる方が多かったのと、防災公園としての機能もここに付けて、児島地区についても同じように広い広場で避難していただけるような場所ということ使っていこうと思っておりますが、倉敷の地区の方ではこのような形になっております。非常に混むと思いますので、寿町の踏切りを広げる工事と旧2号の所の道を拡幅する工事を今やっております。何とか秋のオープンまでに間に合うようにしたいと思っておりますので、また倉敷地区の方に来られた時にはぜひご利用いただければと思います。

全般的なことで特に平成23年度に大きく変化しておりますのは、私の公約の大きな一つですが、倉敷市の財政力を以前より良くする、着実に借金を減らしていくということでございます。今のところ公約以上の借金を減らして実現できる見込みとなっております。もう一つは子育ての事に力を入れようということで、今年4月から子どもさんの病院に行かれた時の医療費につきまして、小学校6年生まで市の負担で行けることにいたしました。岡山市等大きな都市を含めては県内では倉敷市が初めてです。もちろん小さな市ではやっていращやる所はたくさんありますが、大きな市ではお金が莫大になりますので、その見込みができないと実行するのは難しいと思っておりました。しかし借金を何とか減らし

つつ、これまでは入院の分だけ無料にしておりましたが、今年4月から小学校6年生まで通院につきましても無料と広報にも載せております。

もう一つ子どもさんだけでなく、年配の皆さんに健康でいていただきたいということで、こちらの方は無料ではないですが、大人の方の肺炎球菌ワクチンの補助を始めることにしました。年配の方が病気になられて亡くなるのが癌と心筋梗塞と脳卒中と大きな3つがあるのですが、それと合わせて肺炎で命を落とされる方が非常に多いわけです。肺炎球菌ワクチンを70歳の時くらいに打っていただければ、その後何か病気にかかった時に肺炎になる確立が非常に低くなるという全国的な統計が出ておりました。ですので、肺炎球菌ワクチンは病院で大体8千円するんですが、今年から市の方から3千円補助金を出しまして皆様の5千円の負担で受けていただけることにいたしました。70歳の時になるべく受けていただきたいということで、70歳の時に補助金を出すことにしているんですが、今年70歳以上の方がたくさんいらっしゃいますので70歳以上の皆さんが全員対象になっておりますので、なるべく早く受けていただければと思います。病院の方で、例えばこの人は73歳で受けられたかどうかをチェックをできないと相談したら言われたので、来年からは70歳の時に行かれたら受けられることになっております。何年かごとに打っていただくのも一つの医者の方の推奨ですが、一回打っていただくのと打っていないのではそれから何年経っても全く効果が違いますので、せっかくこちらの方も岡山県内の大都市で思い切って初めて導入しましたので、ぜひ皆さんの方からいろいろ宣伝をしていただければと思います。倉敷市内の児島地区と倉敷地区のことについてまずお話をさせていただきます。

それでは今お話をさせていただいたこと、全然違う事でも結構でございます。児島の郷内地区のこと、児島全体のこと、「地域力を活かすまちづくり」ということで地域の皆様方にはこういう所を改善すれば良くなるのではないかと、ご意見をいただければと思います。

《参加者Aさん》

この快適で美しい市の素晴らしい郷内公民館ができて地域住民本当に喜んでおります。一つ市長さんをお願いですが、一つ物を得たら古いものが必ず残ります。残った古い今の公民館の後始末をどう考えられておられるのか質問します。これに維持管理に税がかかるなら健全財政とはほど遠くなります。震災のためにどんどん国税が使われる。これからも使われる。先ほど市長が言われたように税を少しでも少なくして健全な財政を目指すということをお聞きしたいと思っております。

《市長》

私が平成20年5月に就任いたしまして、最初に取り掛かりました仕事のいくつかがこの郷内公民館もそうでございますが、市内のいくつかのやはり懸案事項がありまして、玉島地区にもあったんですが途中のままになっておりました。せっかく物ができるんですが、そこへなかなか進んでいかないということが各地結構ありましたので、とにかく前に進めたいという思いで、この場所でせっかく土地の方も購入しておりましたので進めることになりました。こちらや玉島や他の地区の方も市の施設について建設を進めるということで今年やっとできたものでございます。跡地の活用のことについて、この旧の公民館の所も玉島の所もそうですが、全体的に考えなければいけないと思っております。とりあえず前に進

む方ばかり検討しておりましたので、跡地について実際のところは検討が進んでいない現状ですが、もちろん公民館も何かとして使うことはこちらにこれだけ造っておりますのでないわけです。あと耐用年数の問題、管理費が一体いくらかかるかという場合、他の地域の同じような建物の関係もあり、やっとならざるものについてはとりあえずできましたので、後の分についても至急検討しないといけないと思っている状況にまでしかいっておりません。言って頂きましたような維持管理費もかかるし、本当にこれからどのくらい持つのかをよく見極めて、本当に使えるのかしっかり検討させていただきたいと思っております。

《参加者Bさん》

倉敷市の財政の問題に非常に関心があります。今どんな例があるのかよく分かりませんが、過去からすると相当悪くなって現市長かどうか分かりませんが、その原因です。倉敷の財政悪化が前の市長からと思いますが、よく分からないけど、チボリの問題。市が財政支出したものがどれくらいあって、色んな設備や施設が県から移譲されたりして、倉敷市がどのような財政支出の損失を被ったのか。今のチボリの話で全部受けて今の話があるんですが、われわれ大変大きな問題でして関心を持っています。

もう1つは「暮らしやすい倉敷市」ということを市長かねてからおっしゃってしまして、特に「子どもの未来」を強調されているんですが、「暮らしやすい倉敷市」とはどういうベンチマークを持ってどういう水準を求めているのか。いつまでに等を言って欲しいです。

3点目は、非常に大きな問題だと思いますが、この日本の国の地方自治。特に市議会で何をやってきたのか。どういう問題を抱えているのか。人数が多すぎるんじゃないか。定数を大幅に下げる、ということに対してどう思っているのか。市長と市議会が本当に機能しているとは思えない。どうしたら倉敷の未来に素晴らしい議会と市長の関係が築けるかということ。

それから防災、特に台風。これは東南海とか地震の問題がありますが、瀬戸内を挟んでいるので極端な事はない気がするんですが、この地域は海拔が約4メートルしかありませんので、高潮と重なると水没する可能性があるんです。台風の時にそれに対する市の防災体制の見直しが前回ありましたね。

それと倉敷市の無駄、いっぱいあると思います。そこの中には天下りも含めていろんな組織の無駄を共有化して欲しいです。早くそうしないと市だけでなく国は持たないんです。そんな危機感もありまして、倉敷の未来というテーマでお話させていただきました。

《市長》

なかなか難しい問題がありまして、まず倉敷市の財政難ですが、一つの指標で言いましたら、国から貰います「地方交付税」という、国からの仕送りみたいなものを倉敷市は平成10年までは貰ってなかったんですが、今は100億円ぐらい貰っております。それは以前に比べて倉敷市の税収が減ったり、住民サービスとして必ず掛かるお金が増えてきたということで貰っています。以前と比べて何が一番大きく悪くなっているかという、やはり景気の低迷で水島コンビナートの企業の皆さんから入ってくる税金の部分です。固定資産税がたくさん、償却資産(税)がたくさん(減りました)。

《参加者Bさん》

自分たちが失敗した部分は、税金は分かるから。

《市長》

税金は以前と比べて下がっている。私は最近市長になったばかりですけど、以前は何と言いますか、地区ごとに、以前別々の市でしたから同じ建物を同じ規模、もしくはこっちで大きくなったらもっと大きいものをとか、そういうこともありました。それが維持管理も含めて今何十年も経ったら建替えだったり、維持補修しないといけなくなります。そのお金も結構多くなっていくのも一つの要因です。そういうこともあって一つ一つ建てると一つ一つに非常にお金がかかるので、それを一緒にしまして共通経費を減して将来にお金がかからないようにというもので、新しい建替えをここ数年間始めています。

それから市の貯金ですけど、私が来た当時は結構あったんですけど。市長になる直前に、なった時も貯金箱を見ましたが、非常に減っておりました。

《参加者Bさん》

市はチボリ公園でいくら損したの。

《市長》

倉敷市は貸付をしています。それは返ってくる部分が多いです。(貸付金の元本及び利子は全額回収しました。)

《市長》

それから市議会については、倉敷市の市議会議員さんの数は全国的に中核市と比べては多いというわけではないです。通常1万人に対して1人の市議会議員さんと言われています。倉敷市は今48万人ですので、48人が標準かと思うんですが、今43人ですので、全国標準よりは少ないと思っております。もちろん議会にも市役所の方にも改革は必要だと思っておりますのと、防災の面は、ちょうど昨日、東日本の震災を一つのきっかけにして、もう一回倉敷市の特に沿岸部、津波高潮対策の見直しをするように指示をしたところです。津波の避難所の場所としてこの幼稚園とか小学校が適切なのかということ、もう一回沿岸部で想定は何メートルというのから、倍した時に、3倍だともう一回見直しするようにしております。見直しを、無駄が少しでも少なくなるようにという思いでやっております。

最後に、一つだけ天下りの話が出ました。確かに倉敷市では今60歳定年でございますけれど、60歳後に外郭団体で市の職員さんだった方に働いていただくという機会があります。その高いか低いかでありますけれど、市役所で仕事をして60歳定年を迎え、例えば外郭団体に行った時の1ヶ月の給料は13万円くらいです。国で言われる天下りとわれわれの地方公共団体で定年後に仕事をするというのは全く違っており、少し状況が違います。もちろんいろんな行革は進めていこうと思っておりますが、そういう状況です。

《参加者Cさん》

ここ児島地区、郷内では3年前からコウノトリが1羽飛来しています。児島には鴻八幡宮といってコウノトリゆかりの神社もあります。昔コウノトリが松の木が多かったので巢

作りをしていたそうです。そういう観点もあって、3年前から私ほとんど1人でやっていたのですが、去年から「倉敷コウノトリの会」を発足し、住民の方も巻き込んで行政の方もご協力してもらっています。環境のテーマですけど、なんで3年間定期的にここの郷内地区に定期的に飛来するかというと、山田に流れる水、コウノトリにそこが魅力だと思うんです。池もあります。10月位から池が引く。そこでいつもエサを獲っています。でもあそこだけでは1日に500グラムから1キロ食べるコウノトリにとってちょっとまだ物足りない。去年から私らは休耕田を借りてビオトープを作ってエサを作っています。それでも足りない。大食いです、コウノトリは。私の希望としては、ここは休耕田が多い。用水路の関係もありますけど、今一つだけなんです。市としてビオトープ作っているのが。コウノトリのためだけではなく、湿地を作ることによって、生物多様性、周りの環境を良くしたい気持ちが強いんです。倉敷市が以前に比べて凄く関心を持って私たちに協力しています。だけど、この郷内地区をコウノトリも住める郷内地区を何とかしようという気持ちがまだ私には見えない。市長としてコウノトリを通じどのように考えているのか教えてください。

《市長》

コウノトリは私自身は写真の方でしかまだ見てないんです。今日いらっしゃっている方で、郷内でコウノトリを実際に見られた方どのくらいいらっしゃるんでしょうか。こんなに多いんですね。

《参加者》

実際コウノトリは郷内に来ているんです
一羽か二羽か分からないけど来てます。

《市長》

それはすごいですね。

《参加者Dさん》

この町内会の住民なんですけど、去年の秋祭りには忙しい中を市長さんにもわざわざ時間を作って来て下さった、皆さんにも喜んでいただきました。あと熊野神社まだ整備をしていない所がたくさんあるんですけど、ご案内したんですけど、時間を取ってくれて本当にありがとうございました。熊野神社の事も心配してもらってこれだけ立派な神社があるからもっとお参りしましょうと、本当にそう言ってもらって、今後ともよろしく願います。

《市長》

私もお祭りの時に熊野神社の方にお伺いして、非常に歴史のある神社だということを伺いまして、代々案内される方がいらっしゃったりとか、お社が何と言っても本当に見ただけで歴史がある国の重要文化財になっておりますし、確か3、4年前火事があったて床とか台をやり直して火事から直って良かったと思いますけれども、拝見して本当にもっと多くの方に知っていただきたいと思う場所です。今まさに第一の神社ということになっており

ますので、今パワースポットみたいなのが全国的にもブームになってきているので、観光のマップとか市のPRの中でももっと知っていただけるようなことに、市として一緒にやっていたらと思っております。

それからコウノトリについては、定期的に本当に来ていただけるのか分からないとは思っているんですけど、市としての生物多様性の面での所でコウノトリ専用というのは難しいと思いますが、ビオトープ等どういう形でできるかまだ分からないんですけど、生物多様性については大切なことと思っております。玉島についても溜川公園の環境にも力を入れております。もちろん市だけではできない部分が多いと思っておりますので、地域の皆さんによく相談をして協力していただければと考えております。コウノトリは幸せを運ぶトリでございますので、大切にしたいと思っておりますし、ずっと来てもらえればという気持ちを持っております。

《参加者Eさん》

僕は児島の大正橋というちょうど今日説明して下さった中心にあります。私が常々誇りを持っていることがあります。あの鷺羽山の景観。雄大な瀬戸大橋と倉敷の多島美の美しい私自身も本当に綺麗だと思っております。前前前支所長と話をする機会がありまして、この景観をなぜ活かしきれないのかという話になり、「児島人の気質かな」ということを言われたんです。そこから僕は分析できないんですけど、この宿題を市長さんにさせていただきたいと思っております。せっかくこの美しい景観を何度か挑戦されたかと思うんですけど、今度また新たに見ていただいた後に、人、物、金がどんどん流通し発展ある児島に、いい物があるのですから、活かしきって欲しいと思っております。

《市長》

鷺羽山、王子が岳の方も含めて倉敷市の児島地区の沿岸部分は、日本で最初の国立公園として指定をされたような素晴らしい場所ですので、そこをもっと知っていただけてかつ、皆さんに広めていただけるような整備をしていきたいと思っております。先ほどお話が出たんですけど、倉敷市内全体で本当に整備をしたり課題がある所がまだまだたくさんあります。この郷内公民館で一番最初に取りかかって、何年もかかりやっと竣工ということだったんですが、各地区についても先ほどの建物についてもそうなんですけど、倉敷市の今後を考える時、今あるものをそのまま建替えではなくて、どういう風に今後していくかという時に長期的に考えていかないといけないというのを、市の方で新たに長期修繕計画室という組織を作り、年代とか耐震ができていくとか、そういう情報を集積し、これとこれは例えばこういう地区では子どもさんの数が少なくなってくるから幼稚園が2つあるけれど1つにせんといかんとか、1つそれがなくなったらどうしようかと考えていくように、だんだん増えてくるように思っています。将来に向けて、この震災があって国もお金ももつとなくなっていくんじゃないかと思っております。国からの仕送りとか県をあてにできないので、市がちゃんとやっていたらいいような考えを持ってやらないといけないと思っております。

もう1つは、地域の皆さんが健康で長生きしていただいて。日本は長寿国です。健康で長生きを皆さんがしていただかないことには倉敷市の財政は非常に切迫してくるわけでございます。だからといって芝生とか散歩コースばかり作っているわけではないんですけど、この公民館のこと、それから市のいろいろな施設でも結構住民の皆さんからの要望もあり

まして、健康に関することでありますとか、健康の料理に関することでありますとか、もしくは定年されました男性の方が自分で料理を作ったり、もしくは家の自分のいろんなことができるようになるとかの講座だったり非常に人気になってきております。そして地域の愛育委員の皆さんたちが栄養委員の皆さんたちの健康のための食事のことをして下さったり、愛育委員の皆さんたちにお願いまして地域の歩くマップを作ったりということを今していただいております。そういうことを活用する、そして使っていただくことによって皆さんが、そして肺炎球菌ワクチンを早くしていただくことによって病気になっても肺炎にならないということ等によって皆さんが健康で医療にあまりお医者さんもらっちゃうので医療も大切ですけれど、一方で健康で長生きしていただくということが市の今後の財政にとって大変な頼りになることだと思っております。散歩をしていただいたり市の講座をやっていたり、公民館を活用していただいたり、たまにはぜひ市議会の方に来られた事がない方は傍聴にも来ていただいて私がこんな調子でしゃべっておりますので、傍聴に来ていただいて、いろんなことに関心を持っていただきたいと思います。それが市の全体的に活性化していく、そして今日の大きなテーマでありますけれど、郷内地区ではいろんなことに活発な地域であると思います。その活動は今日私が皆さんにお伺いするような活動について他の地域でもこういう活動をやっていて非常に良かったと、今日言っていただいた熊野神社のことについても他の地域にももちろんいい所があると思います。歴史の発見ですとか、もっとこれからは力を入れて行きませんかという話だったらできると思っております、そういう所に力を入れていけるようなのも一つの大きな地域力を活かすまちづくりではないかなと思っております。私からの皆さんへのお願いとしてはそれぞれの立場で元気にご活躍していただきたいということと、市としては何とか将来に負担が残らないように良いまちづくりをして子どもさんお孫さんの世代にずっと倉敷で生活をしていただければと思っております。私は倉敷市については本当にいいと思っておりますところは、これだけの50万人近い人口がいるまちで、これだけ農業から産業から観光から医療から揃っている所は全国でもないと思っております。東京や大阪は人口が多い、建物とビルが非常に多い。でも倉敷市は農業もありコウノトリも飛んだり、のどかな部分もあり、かつ先進的な部分もあります。今回玉島地区のハーバーアイランドに航空機産業の誘致をいたしました。実は愛知県と非常に競争になり、愛知県は小牧基地がありますので、航空機産業の日本のメッカです。そこと競争し、倉敷市の児島の産業地帯に世界の中でもこれからの飛行機の一番主要の部分のものを作れる工場の誘致を県と一緒にしまして、誘致をすることができました。これによって今後期待しておりますのは、そこからの注文といいますか。非常に物凄く難しい技術を持っております。倉敷市には水島コンビナート企業さんには非常に技術もあり、児島地区でも同じように航空機産業の機械、部品を作っている皆さんもすでにいらっしゃいます。倉敷市内もそのような企業の皆さんたちと玉島に来ます航空機産業と力が合わされば、倉敷市は西の航空機産業の拠点になると思いますし、世界の中でも非常に重要な位置を占める場所になると思います。農業から世界最先端の飛行機のあるまちというのは全国でもないと思います。この歴史のある、そして農業もあり、最先端の都市でもある本当にいろんな個性を持った倉敷市のそれぞれの個性を皆さんと一緒に伸ばしていきたいと思っております。皆さんぜひご協力をお願いしたいと思います。

《参加者Fさん》

テレビ放送の地震の話で、亡くなった犠牲者の方は大変な数ですけど、海外の反響を見ると日本人が素晴らしいと。あれだけの地震があったのに、炊き出しにきちんと並んで。前日の倉敷のある業者の方が市から要請でうどん屋さんでしたけど、整然と並んで本当に1杯でも2杯でもいいと言われても、子どもでも1杯しか食べないと、ボランティアに行かれた人が非常に感動したと。子どもでも本当はお腹一杯食べたいのに我慢すると。ああいうのは日本人の教育が行き届いたということも外人から見ると日本の再発見というか、日本人が素晴らしいと言われていているわけなので、われわれが見て逆に教えられる事は非常に多いと思う。岡山、倉敷にああいう天災が起きない保障はない。うちの町内会ですることをいつも言ってるんですけど、まさかの時に絶対起きないことが起きるわけですので、そういう心づもりで先ほど市長にもありましたけど、われわれ男性が朝早く会社に行って、晩帰ってくる家が多い。私も最近退職しまして、自活せねばいかんと自分で料理も始めましたし、毎日散歩でチボリから新しい倉敷みらい公園ができているのを見ると、チボリから新しいものに復興していっているような感じがします。毎朝あれを見ると物凄くパワーをもらいます。毎日ウォーキングするんですけど、市議会傍聴に行っ、次の日に昨日市議会でこういうことがあったんだと話をすると皆さん感心されるんです。たまたま次の日に昨日どんな話があったのか逆に質問を受ける事があります。ロコミで皆さん「地域力を活かすまちづくり」といっても皆さん日々が大事なんで、震災のことで生活を改めてやっぱり日本人は平和大国、平和ボケしていると言われていまして、言葉は悪いですけど、ふんどしを締めなおし自分の生活を見直していけばまさかのことがあっても、衝撃が少なくってすむんじゃないかと思うんです。子どものための教育にもなるし、大人がそういう生活をすれば非常に役に立つと思いますので、ぜひそういうご指導をお願いします。

《参加者Eさん》

公民館と運動公園の所があるんですけど、避難所の案内マークを付けてください。

《市長》

避難所の案内マークは付いていないですかね。私も外はまだ見てないんですが。新しくできたので、まだ付いていない可能性もありますので、よく調べます。

それから、今日皆さんの中で市議会の方に傍聴に来られたことのある方、いらっしゃいますでしょうか。10人くらいですね。地元の市議会議員さんもいらっしゃいますし、市議会議員さん関係なく、児島地区の市議会議員さんが質問に出られる時には地域の質問に関する質問が結構ありますので、その時に選んで来ていただくと。ケーブルテレビでもやっておりますけれども、関心を持っていただけることも多いと思いますので、ぜひお待ちしておりますので、よろしくお願い致します。